



日本キリスト教団
三軒茶屋教会

三軒茶屋 教会通り

第16号 2002年12月発行

〒154-0024
東京都世田谷区三軒茶屋1-31-5
TEL/FAX: (03)3418-4933
編集/発行: 広報部

教会の五十年とこれから



牧師 陣内厚生

教会の秋期セミナーの主題は、「成長する教会と私」というものでした。設立五十周年にあたり、この節目にしっかりとステツプし、成長していくにはどうあるべきか、参加者一同が祈りつつ研鑽したのです。まず日本の教会の現状を検証し、わが教会の成長の必要性、可能性を探るのですが、十分に絞りきれなかったかどうかはさておき、一同、テーマを真剣に考え合いました。これを自分がどのように担っていくのか、各々が胸のうちに決意を新たにしましたことでしょう。

わが教会は、家の教会から開始されましたが、この五十年間に第一次の木造会堂建築、そして十七年前に現在の会堂を建立しました。これに表わされたように、教勢が伸びてきたことは言うに及びません。先代の牧師や、篤実な信徒の方々がよき働きをされた由縁であると改めて思われます。

さて、「これから」を考える時、いろいろな角度からの予測ができません。しかし、私たち自身の問題なの

ですから、むしろ私たちの決意ひとつにかかっていると云わなければなりません。私たちの教会がもっている問題や直面する課題は、挙げればたくさんありますが、最大のテーマは何と言っても「福音の宣教」（広義での）、ないしは「伝道」です。これは牧師のみの課題ではなく、全信徒の課題なのです。

先日、私用で高知へ行った折、私がかつて神学校時代に夏期伝道で四十日間滞在した南国市を訪ねる機会を得ました。思えば一九六〇年、安保騒ぎの直後、初々しい心で太平洋沿岸にある典型的な農村地のT教会に遣わされたのでした。四十年以上たった今も環境は変わらず、三十三名の信徒たちが懸命に教会と牧師を支えています。しかも、T教会を含む数教会が協力伝道をし、三十数年前にN教会を生み出しました。N教会が成長し信徒五十名に達した時、N教会自身が大きくなることよりも別の伝道地を新しくつくり、そこに

訪ねてみて、大きなインパクトを与えられたのです。

私の持論を言わせて頂くならば、大都市の教会は地方の教会に学ぶべきである、ということですが、恐らく地方の教会が、大都市の教会に学ぶことはほとんどないと言ってもよいでしょう。全国どこにでもある過疎地の、いわゆる弱小と呼ばれる教会では、信徒たちは熱心に祈り、献げ奉仕する、生活を賭けた教会生活を促されます。時には信徒エゴイズムをむき出しにする私たち東京の教会では、もつと謙虚に、もつと従順にキリストの体なる教会に仕えることを心がけねばなりません。今後のわが教会を展望する場合も、この課題がクリアーされるなら、力は倍増することでしょう。

教会の十年後、二十年後、五十年後はどうなっているのでしょうか。今の時代は量的な成長もさることながら、質的な成長を図ることが求められているようです。宣教に臨み、「わたしは福音を恥としない」（ロマ一）を合言葉といたしましょう。